

優秀賞

# 青信号の悲劇から学んで考えた事

(中部) 光徳運輸 (株)

宮本 久美

私は2年前まで路線バスの運転手をしていました。その日もいつものようによく似た顔ぶれのお客様を乗せて走っていました。途中一番利用客の多いバス停で一旦全員お客様が降りられました。(さて次のバス停ではお客様待っているかな?)と心の中でつぶやきながらバスを走らせてました。

下り坂に差し掛かりその先にはTの字の交差点で信号は赤で、前には軽自動車が信号待ちをしていました。その後ろにつき停車し青に変わり前車が左折しそれに続き左右を確認し左折の体制に入りながら左後方の下り坂から自転車は来ているかふり返りながら確認し横断歩道を渡る人はいないかと前方に向き直る瞬間右側から信号無視で猛スピードでトラックが突っ込んできた。

バリバリガリガリバキバキとものすごい音と振動がして一瞬何が起こったのか訳がわからずポカンとすると同時に以前大きなもらい事故の経験からのパニック状態に陥り身体はガクガク震えだし心臓が口から飛び出してくるかと思うくらいバクバクしていた時に突っ込んできた運転手が「アナタ赤ナゼ止マラナイ!!!」とものすごい剣幕で怒鳴り込んできた。あまりの怒号に涙がでてきてしまった。しかし私の記憶では信号は間違いなく青。とにかく警察と会社に電話をした。当時私の乗っていたバスは事務所のパソコンでリアルタイムでドラレコの映像が観れたので確認してもらい警察の方に説明し理解してもらいました。

後日わかった事ですすが相手は電話しながら運転しており話に夢中で信号を見落としたとの事でした。外人さんの方言での暴言は今でも頭の中に残っています。不幸中の幸いだったのはたまたまお客様が一人も乗っていなかった事でした。もしもお客様が乗っていたら、大怪我でもしていたらと考えると恐ろしくてまた泣けてきました。

その後の運行は1時間遅れで会社には「バスが来ない」と問い合わせが相次いでいたそうです。本当に迷惑をかけてしまい心苦しい思いでいっぱいでした。改めて自分の仕事の責任の重さ、人の命を預かる重大さを思い知りました。同時に事故を起こした人のように無責任な人が一定数いる事も再認識しました。

今は転職し愛知県安城市の光徳運輸で大型トラックの運転手としてお世話になってます。運ぶ物は変わってもお客様の大切な荷物をお預りしているので責任の重さは変わりません。毎日数え切れない程の信号を渡ります。

今回の事故での教訓は青信号は進めではないと言う事です。今まで普通に通過できていたのは運が良かっただけなんだと思った。交差点では色んな事がある。

信号が変ってもすり抜けてくる車、慌てて渡る自転車、何でこのタイミングでと思うような強引な右折車等々。青信号でも何が起こるかわからない。確認と危険予知をし、構えた運転しなければいけないと思いながら毎日ハンドルを握っています。気をつけてはいるものの年令的に衰えを感じる事もあります。夜間雨天時の運転では特に眼の衰えは実覚があります。対向車のライトが路面に反射しセンターラインが見にくいし、運転適性検査では動体視力は低下しています。これは仕方のない事なんです、私はまだまだ大丈夫とは思わず老いや衰えを認め自分の弱点を素直に認めるだけでも事故の予防になると思います。

最近高齢者の逆送、アクセルとブレーキの踏み間違い等での事故のニュースを聞かない日がないくらい起っています。小さな子供の命を奪ってしまう事故を耳にした時は胸が苦しくなってしまう。

以前大型二種免許取得するために自動車学校に通っていた時、高齢者講習のある日に当たった日がありました。先生に言われた事が「今日は高齢者の方達がコースを走られます。危険な走り方をする人もいます。隣に人が乗るだけで頭が真っ白になる人、目的地に向かってショートカットする人、逆送やはみ出し、とにかく今日は気をつけて下さい」と。そんな現実を見て思ってた事は引き際が大切なのだと言う事。なかなか自分では気付かないかも知れないので、私は娘にお願いしてあります。もしも私の運転が危ないとか怖いとか思った時には「返納して」と言ってくれと。その言葉を言われた時には我を張らず従おうと心に決めています。

老いは誰にでも訪れます。もしその老いを認めず周りの説得にも耳を貸さず大切な命を奪ってしまったら、一生後悔を背負う事になります。それよりも相手の大切な人生と家族の幸せを奪い一生苦痛を与えてしまう事はもちろん、自分を支えてくれている大切な人達も裏切り悲しみを与えてしまいます。そんな事は絶対にしてはいけない。あと何年ハンドルを握れるかわからないけど、青信号の悲劇で学んだ事を無駄にしないように信号を渡るたびに思い出し安全運転を心がけたいです。

この世の中から悲しい交通事故が一件でも減る事願わずにはられません。  
皆様ご安全に。